

社会福祉原論 I

担当教員 金 蘭九

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- 2 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
- 3 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
- 4 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解する。
- 5 福祉政策の課題について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、現代社会と福祉
2	福祉制度の概念と理念
3	福祉政策の概念と理念
4	福祉制度と福祉政策の関係
5	前近代社会と福祉1（救貧法、慈善事業）
6	前近代社会と福祉2（博愛事業、相互扶助、その他）
7	近代社会と福祉1（第二次世界大戦後の窮乏社会と福祉）
8	近代社会と福祉2（経済成長と福祉、その他）
9	現代社会と福祉1（新自由主義、ポスト産業主義、グローバル化）
10	現代社会と福祉2（リスク社会、福祉多元主義、その他）
11	需要とニーズの概念（需要の定義、ニーズの定義、その他）
12	資源の概念（資源の定義、その他）
13	福祉政策と社会問題1（貧困、失業、要援護〈児童、老齡、障害、母子・寡婦など〉、偏見と差別）
14	福祉政策と社会問題2（社会的排除、ヴァルネラビリティ、リスク、その他）
15	福祉政策の現代的課題

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

定期試験60%、レポート20%、発表20%で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』第4版（中央法規、2018年）。

【参考文献】

厚生労働省編『（平成29年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2017年）。
内閣府編『（平成29年版）障害者白書』（日経印刷、2017年）。『社会福祉六法』（最新版）。

社会福祉原論Ⅱ

担当教員 金 蘭九

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 福祉政策の課題について理解する。
- 2 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む）について理解する。
- 3 社会福祉をめぐる日本及び諸外国の動向について理解する。
- 4 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
- 5 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、福祉政策の現代的課題
2	福祉政策の課題と国際動向（社会的包摂、社会連帯、セーフティネット、その他）
3	福祉政策の論点1（効率性と公平性、必要と資源、普遍主義と選別主義、自立と依存、ジェンダー）
4	福祉政策の論点2（自己選択とパターンリズム、参加とエンパワーメント、福祉政策の視座）
5	福祉政策における政府の役割
6	福祉政策における市場の役割
7	福祉政策における国民の役割
8	福祉供給部門（政府部門、民間部門、ボランティア部門、インフォーマル部門、その他）
9	福祉供給過程（公私関係、再分配、割当、行財政、計画、その他）
10	福祉利用過程（スティグマ、情報の非対称性、受給資格とシティズンシップ、その他）
11	福祉政策と教育政策、福祉政策と住宅政策など
12	福祉政策と労働政策、震災と福祉政策など
13	福祉供給の政策過程と実施過程
14	福祉政策の国際比較
15	福祉政策の課題と展望

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

定期試験60%、レポート20%、発表20%で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』第4版（中央法規、2018年）。

【参考文献】

厚生労働省編『（平成30年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2018年）。
内閣府編『（平成30年版）障害者白書』（日経印刷、2018年）。『社会福祉六法』（最新版）。

児童福祉論 I

担当教員 金和 史岐子

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要を理解できる。
- 2 児童・家庭福祉制度の発展過程を理解できる。
- 3 児童の権利について理解できる。
- 4 相談援助において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解できる。

【授業の展開計画】

[授業全体の内容の概要]

児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度を児童の権利から理解できる。

[授業終了時の達成課題]

社会情勢を学び、社会福祉士に必要な児童・家庭福祉制度の最近の動向を理解できる。

週	授 業 の 内 容
1	児童や家庭に対する支援と家庭福祉制度の概要・課題
2	子ども家庭福祉の理念・定義
3	子どもと家庭の権利保障
4	子ども家庭福祉の発展
5	現代社会と子ども・家庭
6	子ども家庭福祉にかかわる法制度
7	児童相談所の役割と実際
8	子どもの貧困
9	母子保健
10	障害・難病のある子どもと家族への支援
11	児童健全育成・保育
12	社会的養護
13	非行・情緒障害
14	児童虐待
15	児童・家庭に対する相談援助活動

【履修上の注意事項】

社会福祉士国家試験受験資格取得者希望者は、必ず履修する。授業前にテキストを読むこと。授業後にポイントをおさえて復習しておくこと。

【評価方法】

試験（もしくはレポート）70点、授業内レポート30点で評価する。

【テキスト】

福祉士講座編『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』，新社会福祉養成士講座、中央法規。

【参考文献】

随時、授業時紹介する。

高齢者福祉論 I

担当教員 吉岡 久美

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 高齢者への支援に必要な介護保険法の概要、諸手続き方法、居宅・施設サービスの種類、地域支援事業、地域包括支援センターの機能や役割を説明できる。
2. 高齢者への総合的相談援助に必要な高齢者諸関係法を説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	介護保険法の目的、保険者と被保険者、保険料を知る。
2	介護保険法の要介護認定の仕組みとプロセスを理解する。
3	介護保険サービスの種類と体系を理解する。
4	介護保険法の居宅・介護予防・地域密着型サービス、住宅改修を理解する。
5	介護保険法の施設サービスの種類、役割、機能を理解する。
6	地域包括支援センターの役割と実際を理解する。
7	介護保険法における地域支援事業、苦情処理、審査請求、介護保険制度の動向を理解する。
8	介護保険法における組織及び団体の役割を理解する。
9	介護保険法における専門職の役割と実際を理解する。
10	介護保険法におけるネットワーキングとその実際を理解する。
11	老人福祉法の歴史と概要、サービスと援助を理解する。
12	高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律を理解する。
13	高齢者の権利擁護と成年後見制度を理解する。
14	高齢者の居住の安定確保について理解する。
15	高齢者関連法とその関係、諸施策を理解する。

【履修上の注意事項】

該当する単元については、指定テキストを用いて事前に学習しておくこと。講義後もう一度通読して復習し、理解を深めること。
また、指示したレポートは期限を守り、提出すること。

【評価方法】

定期試験90%、課題レポート10%で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『高齢者に対する支援と介護保険制度-高齢者福祉論-』（最新版）中央法規。
野崎和義監修『社会福祉六法』（最新版）ミネルヴァ書房。

【参考文献】

授業中、適宜紹介

障害者福祉論 I

担当教員 金 蘭九

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）について理解する。
- 2 障害者福祉制度の発達過程について理解する。
- 3 相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要
2	障害者福祉制度の発達過程
3	障害者総合支援法
4	障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際
5	障害者総合支援法における専門職の役割と実際
6	障害者総合支援法における多職種連携、ネットワーキングと実際
7	相談支援事業所の役割と実際
8	身体障害者福祉法
9	知的障害者福祉法
10	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
11	発達障害者支援法
12	障害者基本法
13	心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律
14	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律
15	障害者の雇用の促進等に関する法律

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

定期試験60%、レポート20%、発表20%で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』第5版（中央法規、2018年）。

【参考文献】

厚生労働省編『（平成29年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2017年）。
内閣府編『（平成29年版）障害者白書』（日経印刷、2017年）。『社会福祉六法』（最新版）。

ソーシャルワーク論 I

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義について説明できる。
2. ソーシャルワークの概念と範囲、理念について開設できる。
3. ソーシャルワークにおける権利擁護の意義と範囲について説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	現代社会の特性から、地域生活における課題を理解できる。
2	社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義について、各身分法の定義と役割から理解する。
3	社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義について、法制度見直しの背景や義務から理解する。
4	社会福祉士、精神保健福祉士の専門性を理解する。
5	ソーシャルワークの概念を、国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)の定義から理解する。
6	ソーシャルワークの構成要素を、知識、技術、価値の側面から理解する。
7	ソーシャルワークの形成について、基礎確立期をもとに理解する。
8	ソーシャルワークの形成について、展開期をもとに理解する。
9	ソーシャルワークの形成について、統合化とジェネラリスト・ソーシャルワークから理解する。
10	ソーシャルワークの実践について、理念と価値や判断から理解する。
11	ソーシャルワークの理念として、人権尊重と社会正義、利用者本位、尊厳の保持から理解する。
12	ソーシャルワークにおける権利擁護の背景・定義・種類・システムを理解する。
13	ソーシャルワークにおける権利擁護の意義と実践を理解する。
14	自己決定と自立支援、エンパワーメントとストレンクス視点を理解する。
15	ノーマライゼーションや地域生活支援、ソーシャル・インクルージョンを理解する。

【履修上の注意事項】

毎回講義資料を配布するので、授業後は教科書の内容とともに復習し、理解しておくこと。
また、授業終了時には次回の授業の展開を予告するので、事前配布の資料を予習しておくこと。

【評価方法】

授業時に指定した課題レポート（1課題10%以内の範囲）および定期試験（課題レポート評価を除いた配点）の合計で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の基盤と専門職』中央法規（最新版）

【参考文献】

太田義弘『ソーシャルワーク実践と支援科学』相川書房, 2009.
室田保夫『人物でよむ社会福祉の思想と理論』ミネルヴァ書房, 2010.

ソーシャルワーク論Ⅱ

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について説明できる。
2. 総合的かつ包括的な援助と理論および多職種連携の意義と内容について説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	相談援助専門職の概念と範囲を理解する。
2	福祉行政における専門職と民間の施設・組織における専門職を理解する。
3	イギリス、アメリカ、スウェーデン等の諸外国のソーシャルワークの動向を理解する。
4	専門職としての倫理やその必要性を把握する。
5	各団体の倫理綱領やその他の倫理綱領を通して、その意義と内容を把握する。
6	ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマの内容と倫理的判断過程を理解する。
7	総合的かつ包括的な援助の動向と背景を理解する。
8	地域を基盤としたソーシャルワークの視座や地域福祉の基盤整備と開発について把握する。
9	多職種連携（チームアプローチ含む）の意義と内容を理解する。
10	ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義、特質、構成要素を把握する。
11	対象者とニーズの把握、エンパワーメントと社会資源の主体的活用を理解する。
12	ストレンクス・パースペクティブやエコシステム、コミュニティを題材とした援助を理解する。
13	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携（チームアプローチ）を理解する。
14	予防機能や新しいニーズへの対応機能を把握する。
15	総合的支援機能や権利擁護機能を把握する。

【履修上の注意事項】

毎回講義資料を配布するので、授業後はテキストの内容とともに復習し、理解しておくこと。
また、授業終了時には次回の授業の展開を提示するので、事前配布の資料を予習しておくこと。

【評価方法】

授業時に指定した課題レポート（1課題=10%）および定期試験（課題レポート評価を除いた配点）の合計で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の基盤と専門職』中央法規（最新版）

【参考文献】

ジョナサン・パーカーほか『進化するソーシャルワーク』筒井書房, 2008.
川村隆彦『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規, 2011.

児童福祉論Ⅱ

担当教員 金和 史岐子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 児童福祉施策の実際を理解できる。
- 2 児童福祉のあり方について考察し、論じることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	児童福祉施策の概要・課題
2	家族支援の実際とあり方
3	児童虐待の実態
4	児童虐待対策
5	胎児期の実態と支援
6	乳児期の実態と支援
7	幼児期の実態と支援
8	学童期の実態と支援
9	思春期の実態と支援
10	社会人への移行期の実態と支援
11	子どもの貧困
12	障害のある子どもと家庭の実態
13	障害のある子どもと家庭への支援
14	スクールソーシャルワーカー
15	子ども・家庭への援助活動の実際とあり方

【履修上の注意事項】

社会福祉士受験資格希望者は、可能な限り履修する。授業前にテキストを読むこと。授業後にポイントをおさえて復習していくこと。

【評価方法】

試験(もしくはレポート) 70点、授業内レポート30点により評価する。

【テキスト】

山野則子・武田信子編『子ども家庭福祉の世界』有斐閣

【参考文献】

随時、授業で紹介する。

高齢者福祉論Ⅱ

担当教員 吉岡 久美

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 現代社会における高齢者福祉の理念と意義を説明できる。
2. 高齢者の身体的・精神的・心理社会的特長や特性、障害等を説明できる。
3. 認知症高齢者の障害特性とケアを説明できる。
4. 高齢者や家族に対する相談援助活動を説明できる。
5. 高齢者支援の地域活動や民間活動、シルバーサービス等を説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	産業構造の変化に伴う高齢者への影響を理解する。
2	少子高齢社会における課題を理解する。
3	高齢社会における地域創世の取り組みを理解する。
4	居住世帯と家族介護の問題及び課題を理解する。
5	高齢者の所得や就労状況、地域社会との関係を理解する。
6	高齢者の身体的・心理的特性と疾病を理解する。
7	高齢者の精神的特性と疾病を理解する。
8	高齢者の社会的特性を理解する。
9	認知症を医学的・心理学的に理解する。
10	認知症高齢者のケアの理念と方法を理解する。
11	高齢者やその家族、地域住民への支援の方法を理解する。
12	独り暮らしや寝たきりの高齢者やその家族に対する支援と相談援助活動を理解する。
13	認知症高齢者やその家族に対する相談援助活動を理解する。
14	社会福祉協議会の取り組みやボランティア活動、非営利民間活動を理解する。
15	シルバーサービスの現状と展望を理解する。

【履修上の注意事項】

該当する単元については、指定テキストを用いて事前に学習しておくこと。講義後もう一度通読して復習し、理解を深めること。
また、指示したレポートは期限を守り、提出すること。

【評価方法】

定期試験90%、課題レポート10%で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『高齢者に対する支援と介護保険制度-高齢者福祉論-』（最新版）中央法規。
野崎和義監修『社会福祉六法』（最新版）ミネルヴァ書房。

【参考文献】

授業中、適宜紹介

介護概論

担当教員 前田 公江

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 介護の理念とその枠組みについて学習し、人間尊重と自立支援を目指した新しい介護の考え方を理解する。
2. 歴史的展開を理解すると共に、現代社会における介護の在り方や関係職種間の連携の重要性について学ぶ。
3. 介護援助における倫理および援助者としての基本的態度を身につけ、個々の利用者に応じた介護技術の在り方を探求する。
4. 介護を通して「人間としての尊厳」や「その人らしい生き方」について学び、人間観や思考を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	今、なぜ専門職が担う介護が必要なのか、少子高齢化社会の背景から把握する
2	高齢者の特性を理解する：社会的理解・身体的理解
3	高齢者の特性を理解する：心理的理解・介護従事者としての総合的理解
4	介護の概念や対象について
5	介護保険制度の仕組みとサービス体系について
6	地域で支える介護の必要性と介護予防の概念を理解する
7	高齢者の尊厳を支える介護における専門職の役割と実際
8	介護過程の概要と展開
9	介護各論①：自立に向けた介護・家事における自立支援
10	介護各論①：身支度、移動、睡眠の介護の実際・食事、口腔衛生の介護
11	介護各論①：入浴、清潔、排泄の介護
12	介護各論②：認知症ケア
13	介護各論②：終末期ケア・住環境
14	事例検討：介護サービス計画
15	事例検討：認知症ケア

【履修上の注意事項】

単位認定資格は出席3分の2以上が条件です。20分以上の遅刻は欠席とみなします。
授業展開計画は多少前後することがあるため、毎回プリントを配布します。授業で触れた内容については教科書を読み込みしっかり復習し、次回の講義に備えてください。

【評価方法】

授業内容感想小レポートの提出及び講義・演習への参加意欲 20% 試験 80%

【テキスト】

「高齢者に対する支援と介護保険制度」社会福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）

【参考文献】

適宜、講義の中で紹介する。

障害者福祉論Ⅱ

担当教員 金 蘭九

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要について理解する。
- 2 障害者福祉及び関連分野の専門職とその連携のあり方について理解する。
- 3 相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や福祉・介護に係る他の法制度について理解する。
- 4 障害者福祉全般に関する制度改革を理解し、地域生活支援という懸案の課題を認識する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	障害者総合支援法におけるサービス 1 (障害福祉サービスの種類、障害者支援施設の種類など)
2	障害者総合支援法におけるサービス 2 (補装具・住宅改修の種類、自立支援医療など)
3	地域生活支援事業
4	介護保険と障害者サービス
5	障害者福祉の関連分野 1 (保健・医療)、2 (教育)
6	障害者福祉の関連分野 3 (雇用・就労)
7	障害者福祉の関連分野 4 (所得保障・経済負担の軽減)
8	障害者福祉の関連分野 5 (生活環境の改善)、6 (情報保障・権利擁護)
9	障害者福祉の関連分野 7 (ボランティア、文化、スポーツ、レクリエーションなど)
10	障害者運動と当事者参加
11	ケアマネジメントとソーシャルワーク
12	障害者福祉におけるチームワーク
13	相談援助活動事例
14	障害者の自立と就労支援 (work and support)
15	障害者福祉の課題と展望

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

定期試験60%、レポート20%、発表20%で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』第5版（中央法規、2018年）。

【参考文献】

厚生労働省編『（平成30年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2018年）。
内閣府編『（平成30年版）障害者白書』（日経印刷、2018年）。『社会福祉六法』（最新版）。

ソーシャルワーク論Ⅲ

担当教員 豊田 保

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解できる。
2. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解できる。
3. 相談援助の過程、知識や技術（介護保険及び障害者総合支援のサービス計画等を含む）について理解できる。
4. 相談援助における事例分析の意義や方法について理解できる。
5. 相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解し、支援が展開できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ソーシャルワーク（相談援助）における援助関係の意義と概念を理解する（利用者の意思決定支援）
2	ソーシャルワーク（相談援助）における関係形成を理解する（ラポール、自己覚知など）
3	ソーシャルワーク（相談援助）の機能・役割を理解する（マイクロ・メゾ・マクロの役割）
4	インテークの意義、目的を理解する
5	インテークの方法、留意点を理解する（マイクロカウンセリング等傾聴・共感等のスキル）
6	アセスメントの意義、目的を理解する（問題把握・ニーズ確定支援等・エコマップのスキル）
7	アセスメントの方法、留意点を理解する（事前評価から支援目標等記入のスキル）
8	プランニングの意義、目的を理解する（援助計画、介護保険のケアプラン、ナラティブのスキル）
9	プランニングの方法、留意点を理解する（援助計画、センター方式のスキル）
10	説明と同意、及び各サービス計画を理解する（ケアプランの作成と契約スキル）
11	モニタリングと評価の目的、方法を理解する（プロセス評価とアウトカム評価）
12	再アセスメントを理解する（初期アセスメント・再アセスメント）
13	終結と効果測定の意味、方法を理解する（支援プロセスの視覚化）
14	予防的対応とサービス開発を理解する（個別援助から地域支援へ）
15	相談援助論の総合スキルを理解する（新たな福祉サービス支援・全世代型援助）

【履修上の注意事項】

1. 社会福祉士国家試験受験資格取得希望者は、必ず履修する必要がある。
3. 予習については、授業計画のテーマに基づいて、テキストや他の文献等で事前学習すること。
4. 復習については、疑問点や理解不足の部分をテキスト等で再確認すること。

【評価方法】

期末試験と必要に応じたレポート課題によって評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編『相談援助の理論と方法Ⅰ』新・社会福祉士養成講座⑦、中央法規出版。

【参考文献】

社会福祉士養成講座編『相談援助の基礎と専門職』新・社会福祉士養成講座⑥、中央法規出版。 ※1年の教科書

ソーシャルワーク論Ⅳ

担当教員 豊田 保

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。
2. 相談援助の対象と様々な実践モデルについてそのスキルが実践できる。
3. 相談援助の過程、知識や技術について理解でき、援助のプランニングができる。
4. 相談援助における事例分析の意義や方法について理解し、実践できる。
5. 相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解し、実践できる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション ソーシャルワーク論Ⅲの振り返り （相談援助のプロセスを中心に）
2. 相談援助の展開過程Ⅱ 個別支援から地域支援へ
3. 相談援助のためのアウトリーチの技法
4. 相談援助のための契約の技術
5. 相談援助のためのアセスメントの技術
6. 相談援助のためのアセスメントの技術
7. 相談援助の介入技術
8. 相談援助のための面接の技術
9. 相談援助のための記録 意義と目的 記録の種類と活用
10. 相談援助のための記録 記録の方法とIT化 記録と倫理
11. 相談援助のための交渉と技術
12. スーパービジョンの技術 スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係
13. 事例研究・事例分析① 児童虐待が疑われた事例 ホームレスへの相談援助事例
14. 事例研究・事例分析② ドメスティック・バイオレンスの事例 認知症夫婦の事例
15. 事例研究・事例分析③ 社会的排除に対する事例

【履修上の注意事項】

1. 社会福祉士国家試験受験希望者は、必ず履修すること。
2. 予習については、授業の内容について、教科書や事例集で事前に学習しておくこと。
3. 復習については、授業で疑問に思ったことや支援方法を参考書等で再確認すること。

【評価方法】

期末試験によって評価する(100%)。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編 7 『相談援助の理論と方法Ⅰ』（最新版）中央法規出版。

【参考文献】

授業の進展に応じて、適宜、提示する。

相談援助演習 I

担当教員 田島 望

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

相談援助に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。②具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）やグループワークを中心とする演習形態にて実施し、必要な技術等について具体的にイメージできる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	シラバスの説明、アイスブレイキング。
2	相談援助の知識と技術に係る他科目との関連性の理解、個別指導及び集団指導の意義、方法の理解。
3	グループダイナミクスを活用した他者理解と自己理解（自己覚知）
4	基本的なコミュニケーション技術の実技指導 ①コミュニケーションの種類
5	基本的なコミュニケーション技術の実技指導 ②小集団の性質
6	基本的なコミュニケーション技術の実技指導 ③対人コミュニケーションの性質
7	基本的なコミュニケーション技術の実技指導 ④チームアプローチ
8	基本的な面接技術について実技指導を通して習得 ①面接の過程（記録の技術）
9	基本的な面接技術について実技指導を通して習得 ②インテーク（情報の収集・整理・伝達の技術）
10	基本的な面接技術について実技指導を通して習得 ③アセスメント（課題の発見・分析等の技術）
11	基本的な面接技術について実技指導を通して習得 ④プランニング
12	基本的な面接技術について実技指導を通して習得 ⑤支援の実施とモニタリング
13	基本的な面接技術について実技指導を通して習得 ⑥効果測定
14	基本的な面接技術について実技指導を通して習得 ⑦終結とアフターケア
15	ふり返りとまとめ

【履修上の注意事項】

- ・講義と実習をつなぐ重要な科目であることを理解して取り組んでください。
- ・内容をよく確認し、事前学習および講義内容についての復習を行い次回の講義に参加すること。
- ・演習形態での授業のため、各回のグループワークやロールプレイ等への主体的な参加（発言）を求めます
- ・毎回の講義を積み上げていきますので、出席は必須と考えてください。

【評価方法】

演習の参加態度と授業内の課題への取り組み（40%）、課題レポート（30%）、学期末総合課題（30%）により総合的に評価します。

【テキスト】

講義内にて、適宜紹介・配布します

【参考文献】

講義内にて、適宜紹介します

相談援助演習 I

担当教員 福崎 千鶴

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基本的な知識、技術、価値を理解する。また、専門的な実践能力をつけるために、専門的援助技術を習得する。①総合的かつ包括的な相談援助について理解し、考察することができる。②地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学び理解することができる。③個別指導および集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング、モデリング等）を中心とする演習形態により専門的援助技術を習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、アイスブレイキングを通して基本的なコミュニケーション技術を習得する
2	相談援助の知識と技術に係る専門科目との関連性の理解。個別指導・集団指導の意義、方法の理解
3	グループダイナミクスを活用した小集団活動における自己と他者の理解
4	基本的なコミュニケーション技術の実践①コミュニケーションの種類を理解する
5	基本的なコミュニケーション技術の実践②小集団の性質を理解する
6	基本的なコミュニケーション技術の実践③相談援助に伴う意図的な対人コミュニケーションの理解
7	基本的なコミュニケーション技術の実践④チームアプローチの手法について学ぶ
8	基本的面接技術の実践①面接の過程（記録の技術）に伴う専門的技術を習得する
9	基本的面接技術の実践②インタビュー（情報の収集・整理・伝達の技術）について理解する
10	基本的面接技術の実践③アセスメント（課題の発見・分析・解決の技術）について理解する
11	基本的面接技術の実践④プランニングを行う
12	基本的面接技術の実践⑤支援の実施とモニタリングを行う
13	基本的面接技術の実践⑥効果測定について理解する
14	基本的面接技術の実践⑦終結とアフターケアについて理解する
15	基本的面接技術の実践について総合的な理解を深める

【履修上の注意事項】

グループ学習を通じて、相互に意見交換しあいながら授業課題に主体的に取り組むこと。

事前に与えられた課題に積極的に取り組むこと。

授業後に復習しておくこと。

学生状況をみながら、フィールドワークや特別講師による講話などを取り入れ、相談援助専門職としての基本的な知識・技術・価値・倫理などの実践力を修得する。

【評価方法】

出席日数（3分の2以上）があり、授業態度（予習・復習を踏まえた発表など）50%及びレポート提出等50%により、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

参考文献は授業中に随時紹介する。

相談援助演習 I

担当教員 平川 泰士

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

相談援助の知識と技術に係るほかの科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができることをめざす。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により実施する。

【授業の展開計画】

- 01 オリエンテーション。シラバスの説明。アイスブレイキング(自己紹介を含む)
- 02 相談援助の知識と技術に係る他科目との関連性の理解。個別指導及び集団指導の意義、方法の理解
- 03 グループダイナミクス活用（演習形態を含む）における他者認知と自己覚知の意義、方法と内容の理解、技術習得
- 04 基本的なコミュニケーション技術の実技指導①コミュニケーションの種類
- 05 基本的なコミュニケーション技術の実技指導②小集団の性質
- 06 基本的なコミュニケーション技術の実技指導③対人コミュニケーションの性質
- 07 基本的なコミュニケーション技術の実技指導④チームアプローチ
- 08 基本的な面接技術について実技指導を通して習得①面接の過程（記録の技術）
- 09 基本的な面接技術について実技指導を通して習得②インテーク（情報の収集・整理・伝達の技術）
- 10 基本的な面接技術について実技指導を通して習得③アセスメント(課題の発見・分析・解決の技術)
- 11 基本的な面接技術について実技指導を通して習得④プランニング
- 12 基本的な面接技術について実技指導を通して習得⑤支援の実施とモニタリング
- 13 基本的な面接技術について実技指導を通して習得⑥効果の測定
- 14 基本的な面接技術について実技指導を通して習得⑥終結とアフターケア
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

小集団による話し合いやグループワークを行うので、積極的に参加することを求める。本演習では、社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格の取得を前提とし、専門職として就労することを目標にする学生が望ましい。また、指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え、不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】

授業態度・発表の内容・技能習得状況が50%、予習復習による自主的学習態度・状況が10%、課題の内容・提出状況・学期末時の課題が40%による総合評価とする。

【テキスト】

日本ソーシャルワーク学会『ソーシャルワーク基本用語辞典』川島書店、2013年
その他講義時指定する

【参考文献】

随時指示する。

相談援助演習 I

担当教員 橋本 眞奈美

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる具体的な援助場面を想定した実技指導を通して、相談援助に係る知識や技術を実践的に習得することができる。
- ②相談援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶことで、相談援助を概念化、理論化し、体系立てて捉えることができる。
- ③相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を把握することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	シラバスの説明、アイスブレイキング（自己紹介を含む）
2	相談援助の知識と技術に係る他科目との関連性についての理解、個別指導と集団指導の意義と方法
3	他者理解と自己覚知の意義と方法の理解、加えて技術を取得
4	基本的コミュニケーション技術の実技指導①コミュニケーションの種類
5	基本的コミュニケーション技術の実技指導②小集団の性質
6	基本的コミュニケーション技術の実技指導③対人コミュニケーションの性質
7	基本的コミュニケーション技術の実技指導④チームアプローチ
8	基本的な面接技術について実技指導と習得①面接の過程（記録の技術）
9	基本的な面接技術について実技指導と習得②インテーク（情報の収集・整理・伝達の技術）
10	基本的な面接技術について実技指導と習得③アセスメント（課題の発見・分析・解決の技術）
11	基本的な面接技術について実技指導と習得④プランニング
12	基本的な面接技術について実技指導と習得⑤支援の実施とモニタリング
13	基本的な面接技術について実技指導と習得⑥効果の測定
14	基本的な面接技術について実技指導と習得⑦終結とアフターケア
15	インテークからアフターケアまでの援助過程の振り返りと要諦の整理

【履修上の注意事項】

社会福祉士国家試験受験資格希望者は、必ず2年次1学期から履修すること。
グループでの話し合いでは、進んで発言することが望まれる。授業の前には配布されている資料を熟読しておくこと。授業後は専門用語の確認と授業内容を振り返っておくこと。

【評価方法】

授業態度、積極的姿勢から20%
課題レポートの提出&内容から30%
試験から50%

【テキスト】

『ソーシャルワーク基本用語辞典』 2013年刊 川島書店

【参考文献】

必要に応じて配布、もしくは指示する

相談援助演習Ⅱ

担当教員 橋本 眞奈美

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる具体的な援助場面を想定した実技指導を通して、相談援助に係る知識や技術を実践的に習得することができる。
- ②相談援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶことで、相談援助を概念化、理論化し、体系立てて捉えることができる。
- ③相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を把握することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	アイスブレイキング、授業についてのオリエンテーション、事例研究の意義を理解する
2	面接のプロセス理解とその重要性について考察を深める
3	重複（身体・知的）障害（社会的排除を含む）①事例の理解
4	重複（身体・知的）障害（社会的排除を含む）②相談援助場面及び過程の理解
5	重複（身体・知的）障害（社会的排除を含む）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
6	子ども（虐待を含む）①事例の理解
7	子ども（虐待を含む）②相談援助場面及び過程の理解
8	子ども（虐待を含む）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
9	精神（発達）障害（社会的排除を含む）①事例の理解
10	精神（発達）障害（社会的排除を含む）②相談援助場面及び過程の理解
11	精神（発達）障害（社会的排除を含む）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
12	高齢者（虐待を含む）①事例の理解
13	高齢者（虐待を含む）②相談援助場面及び過程の理解
14	高齢者（虐待を含む）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
15	相談援助場面及び過程の振り返りを通して、アセスメントからプランニングまでの面接過程の再確認

【履修上の注意事項】

社会福祉士の相談援助場面を想定したグループによる学習が中心となるので積極的な姿勢で授業に参加すること。授業の前には配布されている資料を熟読しておくこと。授業後は専門用語の確認と授業内容を振り返っておくこと。

【評価方法】

授業態度、積極的姿勢から20%
課題レポートの提出&内容から30%
試験から50%

【テキスト】

『ソーシャルワーク基本用語辞典』 2013年刊 川島書店

【参考文献】

必要に応じて配布、もしくは指示する

相談援助演習Ⅱ

担当教員 田島 望

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

相談援助に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。②具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）やグループワークを中心とする演習形態にて実施し、必要な力量を身につけることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	シラバスの説明、相談援助演習の意義、方法の理解。（演習Ⅰのふり返りを含む）
2	ソーシャルワークの過程（インテーク・アセスメント・プランニング等）の理解
3	身体障がい（社会的排除を含む）の事例の理解
4	身体障がい（社会的排除を含む）の相談援助場面及び過程の理解
5	身体障がい（社会的排除を含む）の実技指導（ロールプレイ・モデリング）
6	知的障がい（社会的排除を含む）の事例の理解
7	知的障がい（社会的排除を含む）の相談援助場面及び過程の理解
8	知的障がい（社会的排除を含む）の実技指導（ロールプレイ・モデリング）
9	精神障がい（社会的排除を含む）の事例の理解
10	精神障がい（社会的排除を含む）の相談援助場面及び過程の理解
11	精神障がい（社会的排除を含む）の実技指導（ロールプレイ・モデリング）
12	高齢者（虐待を含む）の事例の理解
13	高齢者（虐待を含む）の相談援助場面及び過程の理解
14	高齢者（虐待を含む）の実技指導（ロールプレイ・モデリング）
15	ふり返りとまとめ

【履修上の注意事項】

- ・相談援助演習Ⅰを修得済であることを前提とする。
- ・講義と実習をつなぐ重要な科目であることを理解し、演習Ⅰでの学びを踏まえて取り組んでください。
- ・内容をよく確認し、事前学習および講義内容についての復習を行い次回の講義に参加すること。
- ・演習形態での授業のため、各回のグループワークやロールプレイ等への主体的な参加（発言）を求める。
- ・毎回の講義を積み上げていくため、出席は必須と考えてください。

【評価方法】

演習の参加態度と授業内の課題への取り組み（40%）、課題レポート（30%）、学期末総合課題（30%）により総合的に評価します。

【テキスト】

講義内にて、適宜紹介・配布します

【参考文献】

講義内にて、適宜紹介します

相談援助演習Ⅱ

担当教員 福崎 千鶴

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基本的な知識、技術、価値を理解する。また、専門的な実践能力をつけるために、専門的援助技術を習得する。①総合的かつ包括的な相談援助について理解し考察する。②地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学び理解する。③個別指導および集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング、モデリング等）を中心とする演習形態により専門的援助技術を習得することができる。

【授業の展開計画】

相談援助実習・精神保健福祉援助実習及び社会福祉士・精神保健福祉士の業務に必要な知識・技術・倫理について、実技指導を中心とした演習形態の授業を通して体系的・理論的かつ具体的に習得する。

週	授 業 の 内 容
1	シラバスの説明 事例研究及び実技指導の意義を理解する
2	相談援助過程(インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・終結)を理解する
3	事例の理解と相談援助場面及び過程を想定した実技指導 身体障害(社会的排除を含む)①事例の理解
4	身体障害(社会的排除を含む)②相談援助場面及び過程の理解
5	身体障害(社会的排除を含む)③実技指導(ロールプレイ・モデリング)
6	知的障害(社会的排除を含む)①事例の理解
7	知的障害(社会的排除を含む)②相談援助場面及び過程の理解
8	知的障害(社会的排除を含む)③実技指導(ロールプレイ・モデリング)
9	精神障害(社会的排除を含む)①事例の理解
10	精神障害(社会的排除を含む)②相談援助場面及び過程の理解
11	精神障害(社会的排除を含む)③実技指導(ロールプレイ・モデリング)
12	高齢者(虐待を含む)①事例の理解
13	高齢者(虐待を含む)②相談援助場面及び過程の理解
14	高齢者(虐待を含む)③実技指導(ロールプレイ・モデリング)
15	総合的な相談援助過程(効果測定を含む)を理解する

【履修上の注意事項】

社会福祉士の相談援助場面を想定し、指定された事例をもとに予習復習をして、演習課題に主体的に取り組むこと。
学生状況をみながら特別講師による講話やフィールドワークを通して相談援助に伴う実践力の習得を図ることもある。

【評価方法】

出席日数が3分の2以上あり、授業参加態度(予習・復習を活かした発表など)50%、課題レポート等50%により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、必要資料やプリントを配布する。

【参考文献】

適宜、紹介する。

相談援助演習Ⅱ

担当教員 平川 泰士

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

相談援助の知識と技術に係るほかの科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができることをめざす。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により実施する。

【授業の展開計画】

- 01 シラバスの説明。アイスブレイキング。事例研究及び実技指導（ロールプレイ等）の意義の理解。
- 02 面接の過程の（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果の測定・終結・アフターケア）の理解
- 03 身体障害（社会的排除を含む）①事例の理解
- 04 身体障害（社会的排除を含む）②相談援助場面及び過程の理解
- 05 身体障害（社会的排除を含む）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
- 06 知的障害（社会的排除を含む）①事例の理解
- 07 知的障害（社会的排除を含む）②相談援助場面及び過程の理解
- 08 知的障害（社会的排除を含む）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
- 09 精神障害（社会的排除を含む）①事例の理解
- 10 精神障害（社会的排除を含む）②相談援助場面及び過程の理解
- 11 精神障害（社会的排除を含む）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
- 12 高齢者（虐待を含む）①事例の理解
- 13 高齢者（虐待を含む）②相談援助場面及び過程の理解
- 14 高齢者（虐待を含む）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
- 15 まとめ（面接の過程の理解）

【履修上の注意事項】

小集団による話し合いやグループワークを行うので、積極的に参加することを求める。本演習では、社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格の取得を前提とし、専門職として就労することを目標にする学生が望ましい。また、指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え、不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】

授業態度・発表の内容・技能習得状況が50%、予習復習による自主的学習態度・状況が10%、課題の内容・提出状況・学期末時の課題が40%による総合評価とする。

【テキスト】

講義時に紹介する

【参考文献】

講義時に紹介する

相談援助演習Ⅲ

担当教員 橋本 眞奈美

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる具体的な援助場面を想定した実技指導を通して、相談援助に係る知識や技術を実践的に習得することができる。
- ②相談援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶことで、相談援助を概念化、理論化し、体系立てて捉えることができる。
- ③相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を把握することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	シラバスの説明、児童（虐待・貧困を含む）①事例の理解と実技指導
2	児童（虐待・貧困を含む）②相談援助場面及び過程の理解
3	児童（虐待・貧困を含む）③アセスメントからプランニングまでの理解と実技
4	ひとり親家庭・家庭内暴力（D.V）①事例の理解と実技指導
5	ひとり親家庭・家庭内暴力（D.V）②相談援助場面及び過程の理解
6	ひとり親家庭・家庭内暴力（D.V）③アセスメントからプランニングまでの理解と実技
7	低所得者①事例の理解とアセスメント
8	低所得者②相談援助場面及び過程の理解
9	低所得者③チームアプローチを活用したプランニング
10	ホームレス・ニート①事例の理解とアセスメント
11	ホームレス・ニート②相談援助場面及び過程の理解
12	ホームレス・ニート③社会資源の活用・調整・開発についての理解
13	事例の理解と相談援助場面及び過程を想定した実技指導 更生保護
14	事例の理解と相談援助場面及び過程を想定した実技指導 危機状態（権利擁護活動を含む）
15	振り返りとまとめ（面接場面の理解、プランニングに至るまでの過程の理解）

【履修上の注意事項】

社会福祉士の相談援助場面を想定したグループによる学習が中心となるので、積極的な姿勢で授業に参加すること。授業の前には配布されている資料を熟読しておくこと。授業後は専門用語の確認と授業内容を振り返っておくこと。

【評価方法】

授業態度、積極的姿勢から20%
課題レポートの提出&内容から30%
試験から50%

【テキスト】

『ソーシャルワーク基本用語辞典』 2013年刊 川島書店

【参考文献】

必要に応じて配布、もしくは指示する

相談援助演習Ⅲ

担当教員 平川 泰士

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

相談援助の知識と技術に係るほかの科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができることをめざす。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により実施する。

【授業の展開計画】

- 01 シラバス説明。
- 02 児童(虐待を含む)①事例の理解
- 03 児童(虐待を含む)②相談援助場面及び過程の理解
- 04 児童(虐待を含む)③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
- 05 ひとり親家庭・家庭内暴力（D.V）①事例の理解
- 06 ひとり親家庭・家庭内暴力（D.V）②相談援助場面及び過程の理解
- 07 ひとり親家庭・家庭内暴力（D.V）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
- 08 低所得者①事例の理解
- 09 低所得者②相談援助場面及び過程の理解
- 10 低所得者③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
- 11 ホームレス・ニート①事例の理解
- 12 ホームレス・ニート②相談援助場面及び過程の理解
- 13 ホームレス・ニート③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
- 14 事例の理解と相談援助場面及び過程を想定した実技指導 更生保護
- 15 事例の理解と相談援助場面及び過程を想定した実技指導 危機状態(権利擁護活動を含む)
- 16 まとめ（面接の過程の理解）

【履修上の注意事項】

小集団による話し合いやグループワークを行うので、積極的に参加することを求める。本演習では、社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格の取得を前提とし、専門職として就労することを目標にする学生が望ましい。また、指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え、不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】

授業態度・発表の内容・技能習得状況が50%、予習復習による自主的学習態度・状況が10%、課題の内容・提出状況・学期末時の課題が40%による総合評価とする。

【テキスト】

授業開講時に指示する。

【参考文献】

随時、授業時に紹介する。

相談援助演習Ⅲ

担当教員 福崎 千鶴

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に関わる知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る付帯的な相談援助事例を体系的に学ぶ。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心とする演習形態により実施する。ソーシャルワーク実践力をつける。

【授業の展開計画】

- 1回目 シラバスの説明、演習Ⅰ・演習Ⅱの学びの共有、アイスブレイキング、アセスメントシートの説明
- 2回目 児童（虐待を含む）に対する支援について事例を理解する（フェイスシート、ジェノグラム・エコマップ作成）
- 3回目 児童（虐待を含む）の相談援助場面および過程の理解（社会資源の活用）
- 4回目 児童（虐待を含む）の相談援助の実技指導（ロールプレイング、モデリング）
- 5回目 ひとり親家庭・家庭内暴力（DV）の事例を理解する（フェイスシート、ジェノグラム・エコマップ作成）
- 6回目 ひとり親家庭・家庭内暴力（DV）の相談援助場面および過程の理解（社会資源の活用）
- 7回目 ひとり親家庭・家庭内暴力（DV）の相談援助の実技指導（ロールプレイング、モデリング）
- 8回目 低所得者の事例の理解（フェイスシート、ジェノグラム・エコマップ作成）
- 9回目 低所得者の相談援助場面および過程の理解（社会資源の活用）
- 10回目 低所得者の相談援助の実技指導（ロールプレイング、モデリング）
- 11回目 ホームレス・ニートの事例の理解（フェイスシート、ジェノグラム・エコマップ作成）
- 12回目 ホームレス・ニート相談援助場面および過程の理解（フェイスシート、ジェノグラム・エコマップ作成）
- 13回目 ホームレス・ニート相談援助の実技指導（ロールプレイング、モデリング）
- 14回目 更生保護の事例の理解と相談場面を想定した実技指導
- 15回目 危機状態（権利擁護を含む）の事例の理解と相談場面を想定した実技指導 まとめ

【履修上の注意事項】

社会福祉士の相談援助場面を想定した実技指導を含む演習形態の授業のため、教員からの発言を求めたりロールプレイングを中心に授業を展開する。また、相談援助職に必要な知識・技術・価値・倫理を修得するため、専門領域の特別講師による講話を取り入れる。

「演習」科目であり、参加型の授業形態ということで、毎回の出席は必須と考えてほしい。

与えられた課題に積極的に取り組み、予習・復習を行い、次の講義に臨むこと。

【評価方法】

出席日数が3分の2以上あり、ペーパーテスト50%および授業参加態度（予習・復習を活かした発表等）50%により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。授業時、適宜、資料を配布する。

【参考文献】

授業開講時に指示する。

相談援助演習Ⅲ

担当教員 田島 望

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。②具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）やグループワークを中心とする演習形態にて実施し、必要な力量を獲得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導 児童（虐待を含む） ①
2	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導 児童（虐待を含む） ②
3	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導 児童（虐待を含む） ③
4	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導 ひとり親家庭・家庭内暴力(DV) ①
5	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導 ひとり親家庭・家庭内暴力(DV) ②
6	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導 ひとり親家庭・家庭内暴力(DV) ③
7	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導 低所得者 ①
8	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導 低所得者 ②
9	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導 低所得者 ③
10	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導 ホームレス・ニート ①
11	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導 ホームレス・ニート ②
12	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導 ホームレス・ニート ③
13	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導 更生保護
14	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導 危機状態（権利擁護活動を含む）
15	ふり返りとまとめ

【履修上の注意事項】

- ・相談援助演習Ⅰ・Ⅱを修得済であることを前提とする。
- ・演習形態の授業であるため、各回のグループワークやロールプレイ等への主体的な参加（発言）を求めます。
- ・内容をよく確認し、事前学習および講義内容についての復習を行い次回の講義に参加すること。
- ・これまでに学習してきた演習Ⅰ・Ⅱや関連する科目を活かして取り組むこと。
- ・講義を積み上げて、ねらいの達成、実習の充実を目指すため、出席は必須と考えてください。

【評価方法】

演習の参加態度と授業内の課題への取り組み（40%）、課題レポート（30%）、学期末総合課題（30%）により総合的に評価します。

【テキスト】

講義内にて、適宜紹介・配布します。

【参考文献】

講義内にて、適宜紹介します。

相談援助演習Ⅳ

担当教員 田島 望

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

相談援助に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。②具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）やグループワークを中心とする演習形態にて実施し、必要な力量を獲得・実施することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	コミュニティワーク及びコミュニティソーシャルワークの理解
2	コミュニティワークの展開過程の理解（地域問題との出会い・活動の準備・組織化等）
3	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を理解し、地域アセスメントの実技指導
4	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を理解し、地域住民に対するニーズ把握の実技指導
5	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、地域住民に対するアウトリーチを理解
6	地域住民に対するアウトリーチの実技指導
7	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、地域福祉（活動）計画の理解
8	地域福祉（活動）計画の実技指導
9	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、ネットワーキングを理解
10	ネットワーキングの実技指導
11	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、社会資源の活用・調整・開発を理解
12	社会資源の活用・調整・開発の実技指導
13	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、サービス評価を理解
14	サービス評価の実技指導
15	ふり返りとまとめ

【履修上の注意事項】

- ・相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを修得済であることを前提とする。
- ・演習形態の授業であるため、各回のグループワークやロールプレイ等への主体的な参加（発言）を求めます。
- ・内容をよく確認し、事前学習および講義内容についての復習を行い次回の講義に参加すること。
- ・これまでに学習してきた演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲや関連する科目を活かして取り組むこと。
- ・講義を積みあげて、「ねらい」の達成、実習の充実を目指すため、出席は必須と考えてください。

【評価方法】

演習の参加態度と講義内の課題への取り組み（40%）、課題レポート（30%）、学期末総合課題（30%）により総合的に評価します。

【テキスト】

講義内にて、適宜紹介・配布します

【参考文献】

講義内にて、適宜紹介します。

相談援助演習Ⅳ

担当教員 橋本 眞奈美

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる具体的な援助場面を想定した実技指導を通して、相談援助に係る知識や技術を実践的に習得することができる。
- ②相談援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶことで、相談援助を概念化、理論化し、体系立てて捉えることができる。
- ③相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を把握することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	コミュニティワーク及びコミュニティソーシャルワークの理解
2	コミュニティワークの展開過程の理解（地域問題との出会い・活動の準備・組織化等）
3	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解、地域アセスメントの実技指導
4	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解、地域住民に対するニーズ把握の実技指導
5	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、地域住民に対するアウトリーチの理解
6	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の振り返りから、CSWの役割理解
7	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、地域福祉（活動）計画の理解
8	地域福祉（活動）計画の実技指導、地域福祉の基盤整備と活動主体の組織化の理解
9	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、ネットワークングの理解
10	地域福祉の基盤整備と活動主体の組織化、ネットワークングの学びの振り返りからCSWの役割理解
11	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、社会資源の活用・調整・開発の理解
12	社会資源の活用・調整・開発に関する事例から地域福祉の理解の深化
13	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、サービス評価の理解
14	サービス評価の実技指導、地域福祉の基盤整備と開発について理解の深化
15	コミュニティソーシャルワーク、コミュニティワークの振り返り、体系の理解

【履修上の注意事項】

グループによる学習が中心となるので、積極的な姿勢で授業に参加すること。
 これまで学んできた相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを活かしつつ、関連する領域の科目も視野に入れて事例等に取り組むこと。授業の前には配布されている資料を熟読しておくこと。授業後は専門用語の確認と授業内容を振り返っておくこと。

【評価方法】

授業態度、積極的姿勢から20%
 課題レポートの提出&内容から30%
 試験から50%

【テキスト】

『ソーシャルワーク基本用語辞典』 2013年刊 川島書店

【参考文献】

必要に応じて配布、もしくは指示する

相談援助演習Ⅳ

担当教員 福崎 千鶴

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる項目を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング、モデリング等）を中心とする援助形態により実施し、ソーシャルワーク実践力をつける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	コミュニティワーク及びコミュニティソーシャルワークの理解
2	コミュニティワーク展開過程の理解
3	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を理解し、地域アセスメントの実技指導
4	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を理解し、地域住民に対するニーズ把握の実技指導
5	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、地域住民に対するアウトリーチの理解
6	地域住民に対するアウトリーチの実技指導
7	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、地域福祉計画の理解
8	地域福祉計画の実技指導
9	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、ネットワーキングの理解
10	ネットワーキングの技術指導
11	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、社会資源の活用・調整・開発の理解
12	社会資源の活用・調整・開発の実技指導
13	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、サービス評価の理解
14	サービス評価の実技指導の理解
15	マイクロ・メゾ・マクロのソーシャルワークの理解

【履修上の注意事項】

グループによる学習が中心となるので積極的な姿勢で授業に参加すること。参加型の授業形態ということで、毎回の出席は必須と考えてほしい。福祉にかかわる相談援助関連科目の学びを活かしつつ、与えられた課題に積極的に取り組み、予習・復習を行い、次の講義に臨むこと。学生状況を見ながらフィールドワークや特別講師による講話などを取り入れ、ソーシャルワーク実践力の習得を図ることもある。

【評価方法】

出席日数が3分の2以上あり、授業参加態度(予習・復習を活かした発表など) 50%, 課題レポート等50%により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。授業時、適宜、資料を配布する。

【参考文献】

開講時に指示する。

相談援助演習Ⅳ

担当教員 平川 泰士

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

相談援助の知識と技術に係るほかの科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができることをめざす。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により実施する。

【授業の展開計画】

- 01 コミュニティワーク及びコミュニティソーシャルワークの理解。
- 02 コミュニティワークの展開過程の理解（地域問題との出会い・活動の準備・活動主体の組織化・活動計画に作成・活動計画の実践・活動計画の評価と次の展開）
- 03 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解と実技指導 地域アセスメント
- 04 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解と実技指導 地域住民に対するニーズ把握
- 05 地域住民に対するアウトリーチ①地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解
- 06 地域住民に対するアウトリーチ②実技指導
- 07 地域福祉の計画①地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解
- 08 地域福祉の計画②実技指導
- 09 ネットワーキング①地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解
- 10 ネットワーキング②実技指導
- 11 社会資源の活用・調整・開発①地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解
- 12 社会資源の活用・調整・開発②実技指導
- 13 サービス評価①地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解
- 14 サービス評価②実技指導
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

小集団による話し合いやグループワークを行うので、積極的に参加することを求める。本演習では、社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格の取得を前提とし、専門職として就労することを目標にする学生が望ましい。また、指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え、不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】

授業態度・発表の内容・技能習得状況が50%、予習復習による自主的学習態度・状況が10%、課題の内容・提出状況・学期末時の課題が40%による総合評価とする。

【テキスト】

授業開始時に指示する。

【参考文献】

随時、授業時に紹介する。

相談援助実習

担当教員 橋本 眞奈美、平川 泰士、福崎 千鶴、田島 望、隈 直子

配当年次 3～4年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実習

単位数 4

準備事項

備考 本科目は3年次第2学期から4年次第1学期までの開講科目

【授業のねらい】

1. 相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術を体得できる。
2. 社会福祉士に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得できる。
3. 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。

【授業の展開計画】

- ①健康診断等の方法により、学生が良好な健康状態にあることを確認したうえで配属実習を行わせる。
- ②実習指導教員は随時、実習先を訪問し、実習内容及び指導体制、実習中のリスク管理等を実習先と十分協議し、確認しあう。
- ③巡回指導や帰学指導等を通して、以下のア～クについて学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の实習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う。

※実習計画は、実習生・実習指導教員・実習指導者の三者で協議して作成する。

ア. 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成を指導する。

イ. 利用者とその需要の把握及び支援計画の作成を指導する。

ウ. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成を指導する。

エ. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護および支援（エンパワメントを含む）とその評価方法を指導する。

オ. 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際を理解させる。

カ. 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任を理解するように導する。

キ. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際を理解するよう指導する。

ク. 当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関して理解するよう指導する。

【履修上の注意事項】

・相談援助実習の履修にあたっては、先修科目を満たしておくことが最低条件であるが、相談援助実習指導Ⅰおよび相談援助実習指導Ⅱでの指導内容、レポート等における実習先の事前学習内容を十分復習して履修すること。

・実習は原則一か所の実習先で23日間、180時間以上の実習となり、3年次2～3月、あるいは4年次8～9月に配属する。実習前の体調管理には十分留意するとともに、積極的な予習を怠らないこと。

【評価方法】

180時間（一日8時間・23日）以上の実習時間、実習日誌、実習終了レポートの内容(30%)および実習先の実習評価表等(70%)の合計で評価する。

【テキスト】

日本社会福祉士養成校協会監、長谷川匡敏ほか編『社会福祉士相談援助実習』中央法規出版(最新版) 注) 相談援助実習指導Ⅰにおいて購入済み

【参考文献】

随時、紹介する。

相談援助実習指導 I

担当教員 橋本 眞奈美、平川 泰士、福崎 千鶴、田島 望、隈 直子

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 相談援助実習の意義について理解できる。
2. 個別指導並びに集団指導を受けて、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得できる。
3. 社会福祉士に求められる資質、技能、倫理、自己の学習課題等、総合的に対応できる能力を修得できる。
4. 具体的な体験や援助活動を、専門援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていく能力を涵養できる。

【授業の展開計画】

[授業全体の内容の概要]

20人以下の規模に編成し、実習の事前・事後に実習指導教員から個別指導並びに集団指導を受ける。

[授業終了時の達成課題]

社会福祉士に必要な資質、技能、倫理等の能力を実践的に修得し、資格取得を目指す。

※相談援助実習指導 I・同 II 共通

週	授 業 の 内 容
1	実習指導マニュアルに基づき、実習関連科目や今後の指導スケジュールを確認し、理解させる。
2	実習の意義や目的、方法、留意点について理解させる。
3	見学実習の注意事項および事前学習内容を理解させる。
4	高齢者福祉分野の指導者からの講話を元に、その実践活動の実際と課題を理解させる。
5	障害者福祉分野の指導者からの講話を元に、その実践活動の実際と課題を理解させる。
6	地域福祉分野の指導者からの講話を元に、その実践活動の実際と課題を理解させる。
7	児童福祉分野の指導者からの講話を元に、その実践活動の実際と課題を理解させる。
8	保健医療分野の指導者からの講話を元に、その実践活動の実際と課題を理解させる。
9	実習先の資料やレポート課題の学習を通して、各相談援助実践の場を理解する。
10	視聴覚教材を元に、福祉専門職として求められる価値、知識、技術を理解させる。
11	希望実習先の課題レポート作成を通して、その歴史や事業概要、サービス機能を理解させる。
12	希望実習先の課題レポート作成を通して、サービス利用の手続きや利用者を理解させる。
13	既実習者のソーシャルワーク報告会に参加し、ジェネリックソーシャルワークについて理解させる。
14	ソーシャルワーク報告会に参加し、実習先や事前学習の必要性を理解させる。
15	個別指導を通して希望する実習先を理解させるとともに、実習に向けての課題を指導する。

【履修上の注意事項】

相談援助実習は、これまでに講義や演習で学んできたことを基盤に総力で体験しながら学ぶものである。したがって、実習指導においてもソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）等の再学習をしておくこと。

また、課題レポートなどにも積極的に取り組み、実習の目的や意義をはじめ、相談援助の実践能力が涵養できるように予習を行うこと。

【評価方法】

指導に対する積極的応答と関与(30%)およびレポート提出とその内容(70%)の合計で評価する。

【テキスト】

日本社会福祉士養成校協会監, 長谷川匡敏ほか編『社会福祉士相談援助実習』中央法規出版(最新版)

【参考文献】

随時、授業時に紹介する。

相談援助実習指導Ⅱ

担当教員 橋本 眞奈美、平川 泰士、福崎 千鶴、田島 望、隈 直子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 相談援助実習の意義について理解できる。
2. 個別指導並びに集団指導を受けて、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得できる。
3. 社会福祉士に求められる資質、技能、倫理、自己の学習課題等、総合的に対応できる能力を修得できる。
4. 具体的な体験や援助活動を、専門援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていく能力を涵養できる。

【授業の展開計画】

[授業全体の内容の概要]

●印＝4月下旬に集中講義 ■印＝配属実習終了後に集中講義

20人以下の規模に編成し、実習の事前・事後に実習指導教員から個別並びに集団指導をうける。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

社会福祉士に必要な資質、技能、倫理等の能力を実践的に修得し、資格取得を目指す。

※相談援助実習指導Ⅰと共通

週	授業の内容	週	授業の内容
1	●見学実習準備(事前学習の確認、指導)	16	感染症および予防方法の理解
2	●見学実習準備(事前学習の確認、指導)	17	実習計画書(案)に基づいたレポート作成指導
3	●見学実習(サービスや利用者の理解)	18	実習課題の整理、三者協議事項指導
4	●見学実習(サービスや利用者の理解)	19	三者協議時の実習内容・計画等の指導
5	●見学実習振り返り(学習課題の指導)	20	実習計画の再検討の指導
6	課題レポートの確認と事前学習指導	21	実習中の連絡方法や必要書類等の指導
7	実習先の理解(法的根拠、利用手続き等)	22	巡回指導や実習中の諸注意事項の指導
8	実習先の理解(配置基準、主な業務内容等)	23	■個別スーパービジョンにて実習の振り返り
9	アセスメント、支援プラン作成指導	24	■記録類を参考にした個別スーパービジョン
10	実習計画書作成(目的や意義、方法の指導)	25	■総括レポート作成の指導
11	実習計画書(案)の策定指導	26	■総括レポート作成の指導と評価指導
12	実習先への事前訪問指導	27	■実習報告会の発表指導
13	実習記録の方法や内容の記載指導	28	■実習報告会での発表と相互研鑽指導
14	個人情報保護や守秘義務の指導	29	■実習報告会での発表と相互研鑽指導
15	実習計画書(案)に基づいたレポート作成指導	30	■ジェネリックソーシャルワーク検討の指導

【履修上の注意事項】

相談援助実習は、これまでに講義や演習で学んできたことを基盤に総力で体験しながら学ぶものである。したがって、実習指導においてもソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）等の再学習をしておくこと。

また、実習先への事前訪問やボランティア活動等を通して理解を深め、事前学習にもさらに取り組み、相談援助の実践能力が涵養できるように予習を行うこと。

【評価方法】

指導に対する積極的応答と関与(30%)およびレポート提出とその内容(70%)の合計で評価する。

【テキスト】

日本社会福祉士養成校協会監、長谷川匡敏ほか編『社会福祉士相談援助実習』中央法規出版(最新版) 注) 相談援助実習指導Ⅰにおいて購入済み

【参考文献】

随時、授業内で紹介する。

こころとからだのしくみ I

担当教員 吉岡 久美

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

生活支援に必要な介護技術の根拠となる人体の構造や機能および生活援助サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。

【授業の展開計画】

【全体の内容の概要】医学・心理的知識をもとに、身じたく・移動・食事・排泄といった生活に欠かすことのできない分野に関連したこころとからだのしくみについて理解する。

【到達目標】身体構造・心理的側面を理解し、安全・安楽な身じたく・移動・食事・排泄のしくみが理解でき、発達段階をもとに障害や認知症などの心身の状況に応じた介護のアセスメント能力を身につける。

週	授 業 の 内 容
1	人体の構造と機能、障害や認知症を理解し、生活機能低下における生活行動への影響を理解する。
2	身じたくに関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響を理解する。
3	身体や認知機能低下・障害が及ぼす整容行動への影響、生活場面での変化の気づきと連携を学ぶ。
4	身じたくに関連したこころとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）
5	移動に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響を理解する。
6	身体や認知機能低下・障害が及ぼす移動への影響と、生活場面における変化の気づきと連携を学ぶ。
7	移動に関連したこころとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）
8	食事に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響を理解する。
9	食べることに関連したこころとからだのしくみを理解する。
10	身体や認知機能低下・障害が及ぼす食事への影響と、生活場面における変化の気づきと連携を学ぶ。
11	食事に関連したこころとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）
12	排泄に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響を理解する。
13	身体や認知機能低下・障害が及ぼす排泄への影響と、生活場面における変化の気づきと連携を学ぶ。
14	排泄に関連したこころとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）
15	身じたく・移動・食事・排泄、認知症状の理解と心理的変化の理解を統合した支援の視点を学ぶ。

【履修上の注意事項】

学則の出席規定を遵守すること。出席不足の学生は評価対象としない。

演習等をおりまぜながら授業展開するため、積極的に取り組み、課題提出期限を守ること。

期限を過ぎた提出物は評価対象としない。

事前学習として、講義で示している単元のテキストを読んでもらうこと。

事後学習では、講義中にとったノートをまとめなおし、課題に取り組むこと。

【評価方法】

筆記試験 80%

演習参加状況、課題提出 20%

【テキスト】

メジカルフレンド社 こころとからだのしくみ

【参考文献】

中央法規出版 こころとからだのしくみ

こころとからだのしくみⅡ

担当教員 吉岡 久美、石本 淳也、小阪 勝己

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。

【授業の展開計画】

1. 人体の構造と機能の基本を知り、障害や認知症を理解し、さまざまな生活機能低下における生活行動への影響を理解する。：吉岡
2. 入浴に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響：小阪
3. 身体や認知機能低下・障害が及ぼす入浴行動への影響と、生活場面における変化の気づきと連携：小阪
4. 入浴に関連したこころとからだのしくみの理解（事例をとおした演習）：石本
5. 清潔に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響：吉岡
6. 身体や認知機能低下・障害が及ぼす清潔への影響と、生活場面における変化の気づきと連携：小阪
7. 清潔に関連したこころとからだのしくみの理解（事例をとおした演習）：石本
8. 睡眠に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響：吉岡
9. 身体や認知機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響と、生活場面での気づきと連携：小阪
10. 睡眠に関連したこころとからだのしくみの理解（事例をとおした演習）：石本
11. 終末期とはなにか、法的な死について理解する。：石本
12. 死をむかえるまでの身体的変化、受容プロセスとこころの変化：吉岡
13. ターミナルケアにおける介護の役割と家族支援：小阪
14. グリーフケアの理解：吉岡
15. まとめ（生活に欠かせない行動に影響する身体機能低下や心理的变化、障害、認知症を含めた高齢者の特徴について振り返る。また、誰もが迎える死についての死生観を考える。）：吉岡

【履修上の注意事項】

事前学習として、講義で示している単元のテキストを読むこと。
 事後学習では、講義中にとったノートをまとめなおし、課題に取り組むこと。
 授業内ではディスカッション・ディベート等、話し合い活動を取り入れることが多い。
 積極的に参加し、自らの考えを伝え、支援の方向性を見出すこと。

【評価方法】

原則として筆記試験（60％）、積極性及び小レポート（40％）を評価の対象とする。

【テキスト】

最新介護福祉全書 「こころとからだのしくみ」 メヂカルフレンド社

【参考文献】

介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座14 こころとからだのしくみ」中央法規

発達と加齢現象

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

一般心理学の基礎理論・技術をベースに、高齢者への心理的援助のあり方を理解できること。
特に発達心理学・認知心理学及び老年学（ジェロントロジー）の視点を入れながら高齢者の理解や加齢現象に伴う問題及び心理的問題に対する対応方法について理解できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生涯発達心理学とエイジング心理学
2	ジェロントロジーと生涯発達
3	発達段階と課題
4	高齢者を含む心理学的人間理解
5	高齢期のサクセスフル・エイジングと生きがい
6	高齢者の健康（体力と機能）
7	感覚・知覚のエイジング
8	記憶・学習のエイジング
9	認知・知能のエイジング
10	性格・感情のエイジング
11	家族との関係
12	社会・仕事との関係
13	心理的問題への理解
14	認知症への理解
15	まとめ：生涯発達の観点から加齢を理解し、高齢者の心理や機能の変化に関する知識を総括する

【履修上の注意事項】

主に高齢者の加齢現象について、新聞や文献等で事前に学習しておくこと。
さらに生涯発達の観点から、高齢期の位置づけなどについて復習すること。

【評価方法】

単位認定試験：100点満点

【テキスト】

未定

【参考文献】

適宜、指示していく。

介護技術

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. □介護に必要な基本的知識・技術を正しく理解し、実施できるようになる
2. □介護を必要とする人々の身体的・心理的状況に配慮し、自立を支援できるようになる
3. 生活支援技術（介護技術）におけるICFの意義と枠組みを理解できるようになる
4. □安全で安楽な基本的介護技術を展開できるようになる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生活支援の理解
2	ICFの視点とアセスメント
3	介護における基本的なコミュニケーション技術（認知症の方への対応等）・記録と報告
4	自立に向けた居住環境の整備・福祉用具の活用
5	移動・移乗の介護技術Ⅰ
6	移動・移乗の介護技術Ⅱ
7	身じたくの介護技術
8	衣服の着脱の介護技術
9	食事の介護技術
10	入浴・清潔保持の介護技術
11	排泄の介護技術
12	安楽と安寧の技法・睡眠の介護技術
13	緊急事故の対応・終末期の介護
14	介護技術を現場で提供する時に必要な「介護過程の展開」の考え方
15	介護過程の展開の実際（事例検討）

【履修上の注意事項】

授業で使用する物品は忘れずに持参すること。
 授業前に学習する内容のテキストを読み予習しておく。
 授業計画は多少前後することがある。

【評価方法】

レポート70% 課題提出10% 授業中の参加意欲・発表20%

【テキスト】

介護福祉士養成テキストブック 「生活支援技術Ⅰ」（ミネルヴァ書房） 柴田範子編

【参考文献】

適宜、講義の中で紹介する。

介護の基本 I

担当教員 馬場 敏彰

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 介護の歴史を踏まえ、介護問題の背景にある課題を理解し、介護にかかわる動向と介護福祉士の役割と機能を把握し介護の原理原則を学ぶ。
2. 介護の社会化の形成過程の理解から介護福祉士の役割と活動について学び、専門職としての自覚を深める。
3. 専門職としての介護福祉士の自覚と実践を展開できる視点と方法を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	介護の歴史（介護福祉の形成を学ぶ意義）
2	日本における介護の成り立ちから介護福祉形成の背景
3	日本における介護の成り立ちから介護福祉形成の背景（明治・大正時代）
4	日本における介護の成り立ちから介護福祉形成の背景（戦前・戦後）
5	日本における介護の成り立ちから介護福祉形成の背景（老人福祉法制定）
6	介護福祉を取り巻く近年の動向（新介護システム ADLとQOL）
7	介護福祉を取り巻く近年の動向（自立支援に向けた尊厳と自己実現）
8	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ（介護福祉士資格成立前史）
9	介護福祉士の役割と機能（社会的役割としての介護ニーズ）
10	介護福祉士の役割と機能（法的資格への期待）
11	介護福祉士の役割と機能（史的における介護福祉士の役割の理解）
12	介護福祉士の役割と機能（求められる介護福祉士に向けた知識・技術修得の意義）
13	介護福祉形成の理解①〈演習〉（「介護」の見方・考え方の変化）
14	介護福祉形成の理解①〈演習〉（社会的に求められる専門的な介護）
15	介護福祉形成から今後の介護福祉士の役割と課題

【履修上の注意事項】

授業後の復習、授業前の予習を行うこと

【評価方法】

期末試験 80% 提出物 5% 授業態度 5% 取り組み状況 10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『介護の基本 I』『介護の基本 II』中央法規 最新版

【参考文献】

講義のなかで、適宜紹介する。

介護の基本Ⅱ

担当教員 馬場 敏彰

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 尊厳ある介護の理解と、援助理念を学び、人権尊重の観点を踏まえて職業倫理を身につける。
2. 人間の尊厳を支援する理念としてノーマライゼーション・利用者主体・プライバシーの保護・虐待防止等を学び、職業倫理を身につける。
3. 介護福祉士が専門職として身につけておくべき、理念や職業倫理の理解を深めつつ、介護場面での援助関係構築の意義について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	尊厳を支える介護とは
2	利用者への生活支援と尊厳を支える介護
3	生活支援に必要なノーマライゼーションとQOLの考え方
4	尊厳を支える介護の実際
5	利用者主体の介護
6	利用者主体の介護の実際
7	事例を通して考える「利用者主体の介護」
8	介護の倫理（職業倫理、介護従事者の倫理）
9	介護福祉士にとって必要な「倫理」の理解
10	倫理とプライバシー
11	演習を通して考える「倫理とプライバシー」
12	利用者の人権尊重の意義（介護場面における虐待の背景）
13	介護に必要な人権尊重の考え方
14	利用者の人権を尊重した介護の実際
15	尊厳を支える介護の考え方<演習>

【履修上の注意事項】

授業後の復習、授業前の予習を行うこと

【評価方法】

期末試験 80% 提出物 5% 授業態度 5% 取り組み状況 10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『介護の基本Ⅰ』『介護の基本Ⅱ』中央法規 最新版

【参考文献】

講義のなかで、適宜紹介する。

介護の基本Ⅲ

担当教員 川俣 幹雄、小阪 勝己

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

介護職の立場からリハビリテーションの理念について説明できるようになる。また、障害とは何か、障害を持った方の家族支援の在り方や介護における多職種連携の在り方について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	リハビリテーションとは？（川俣）
2	障害の理解（川俣）
3	ICFの概念（川俣）
4	介護を必要とする人の理解（生活歴と価値観）（小阪）
5	介護を必要とする人の理解（障がいや老いと向き合うことの難しさ）（小阪）
6	羞恥心を守る介護の重要性（小阪）
7	家族支援の実際（家族の介護負担、虐待発生のメカニズム）（小阪）
8	家族支援の実際（精神的支援の具体的方法）（小阪）
9	介護福祉士とリハビリテーション専門職との連携の重要性（小阪）
10	生活環境と介護（小阪）
11	良い介護を生む組織・環境づくり（小阪）
12	安全確保、リスクマネジメント（KYT活動等）（小阪）
13	多職種連携の重要性（施設内で行われる多職種連携の実際）（小阪）
14	多職種連携の重要性（在宅で行われる多職種連携の実際）（小阪）
15	介護福祉士に求められているものとは何か（小阪）

【履修上の注意事項】

各回の授業テーマと関連する教科書の該当箇所を事前に予習しておくこと。授業後に復習しておくこと。演習問題は2回以上解いてください。

【評価方法】

期末試験50%、日常的学習状況50%で評価する。

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『介護の基本Ⅰ』『介護の基本Ⅱ』中央法規（最新版）

【参考文献】

適宜講義中に紹介する。

介護の基本Ⅳ

担当教員 野島 謙一郎

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解すると共に、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習をし、介護従事者の倫理や介護における安全の確保とリスクマネジメントを理解できるようにする。

【授業の展開計画】

- 第1回 介護における安全の確保の重要性
- 第2回 リスクマネジメントとは、リスクの特定。
- 第3回 安全確保のためのリスクマネジメントの考え
- 第4回 事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントのしくみ
- 第5回 生活の中のリスクと対策
- 第6回 生活の場での感染対策
- 第7回 高齢者介護施設と感染対策
- 第8回 感染症とリスクマネジメント
- 第9回 介護に携わる人の健康管理
- 第10回 介護職の健康と介護の質
- 第11回 こころの健康管理
- 第12回 からだの健康管理
- 第13回 労働環境の整備・改善
- 第14回 労働環境の改善
- 第15回 専門職業人としての介護福祉士

【履修上の注意事項】

講義前にテキストの当該箇所を一読してください。毎回ノートを取りましょう。参加者の知識・経験に合わせて適切に指導していきます。また、講義進捗や理解度を考慮し内容を変更することがあります。講義後の振り返りを各自行うようにしてください。

【評価方法】

試験結果70% 授業貢献度10% レポート20%

【テキスト】

新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第3版 (中央法規出版)

【参考文献】

授業中にて適宜紹介します。

介護の基本V

担当教員 瀬川 綾

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

介護場面において、安全を確保するということにはどんな意味があるのかを学び、具体的な知識と技術を身に付けることができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	リスクマネジメントとは
2	ヒヤリハット・事故報告書の意義
3	利用者の視点から考える生活支援の方法
4	利用者・家族間との信頼関係づくり
5	事故防止・安全対策のマニュアル
6	チームケアの重要性
7	転倒・転落予防策
8	誤嚥予防の為の食事介助テクニック
9	感染対策の基本
10	感染症発生時の対応
11	高齢者を詐欺などの被害から守る為に
12	健康管理の意義
13	ストレス対策・腰痛対策
14	苦情処理の対応策
15	介護労働者の安全・健康管理

【履修上の注意事項】

実際に現場で起こりうるであろう事故や感染についてどんなものがあるかを調べてくること。また、そのような事故を起こさないためには、どんなことに注意が必要なのかを考え、自分の意見をはっきり発言できるようにして下さい。

【評価方法】

試験 60% 小テスト 10% 発表 20% 学習態度 10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座4 介護の基本II」

【参考文献】

特になし。

介護の基本VI

担当教員 野島 謙一郎

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習をし、介護サービスでの介護福祉士の役割や姿を理解する。

【授業の展開計画】

- 第1回 介護サービスの意味と特性
- 第2回 ケアマネジメントの意味と仕組み
- 第3回 介護サービスの歴史の変遷と時代背景
- 第4回 介護サービスの種類と提供の場
- 第5回 介護保険制度によるサービス概要
- 第6回 障害者総合支援法によるサービス概要
- 第7回 介護サービス提供の場と特性
- 第8回 介護サービス提供の場と特性
- 第9回 介護サービス提供の場と特性
- 第10回 介護サービス提供の場と特性
- 第11回 多職種連携の意義と目的
- 第12回 協働職種の理解と連携のあり方
- 第13回 利用者を取り巻く多職種連携の実際
- 第14回 地域連携の意義と目的
- 第15回 利用者を取り巻く地域連携の実際

【履修上の注意事項】

介護保険制度及び障害者総合支援法の制度理解を事前学習とします。また、講義進捗や理解度を考慮し内容を変更することがあります。

【評価方法】

試験結果70% 授業貢献度10% レポート20%

【テキスト】

新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第3版 (中央法規出版)

【参考文献】

授業中にて適宜紹介します。

生活支援技術Ⅰ

担当教員 馬場 敏彰

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. どのような障害や生活の困難さがあっても生活そのものが個人としての自立・自律するために必要な援助や支援を学ぶ。
2. 生活の理解と支援の方法について、基本的な視点としてのICFの理解を深めると同時に介護サービス提供の対象や場を把握しながら、基本的な介護の知識・技術を養う。
3. 生活の仕組みの理解を深め、生活支援の考え方としてICFの視点を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生活支援に必要な生活の理解
2	生活と生活習慣（生活の主体性）
3	生活形成のプロセスとアイデンティティ
4	生活の構成と要素
5	事例を通して考える「生活形成のプロセス」
6	生活の継続性
7	生活支援が必要な人の理解（生活関連動作と日常の生活）
8	生活支援の理解
9	生活支援の考え方①（意義・目的）〈演習〉
10	生活支援の考え方②（生活障害による生活のしづらさ）〈演習〉
11	生活支援とICFの視点
12	ICFの視点にもとづくアセスメント
13	ICFにおける「活動・参加」〈演習〉
14	利用者の生活と生活支援
15	生活支援の実際

【履修上の注意事項】

授業後の復習、授業前の予習を行うこと

【評価方法】

期末試験 80% 提出物 5% 授業態度 5% 取り組み状況 10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術Ⅰ』『生活支援技術Ⅱ』中央法規 最新版

【参考文献】

授業のなかで適宜紹介する。

生活支援技術Ⅱ

担当教員 西島 衛治、馬場 敏彰

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

[授業の目的・ねらい]・自立に向けた生活空間としての居住環境の整備にかかわって、安全で快適な環境の整備について学ぶ。

[授業全体の内容の概要]・居住環境の整備は、介護を必要とする者にとって安全で快適であることがすべての場面で整備されることを理解する。

【授業の展開計画】

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

・安全で快適な居住環境の確保に必要な視点と方法を身につけ、施設・在宅における環境整備を他職種とも協働して取り組むことのできる態度を身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 居住環境整備の意義と目的（馬場）
2. 生活空間と介護①（居場所とアイデンティティ、生活の場）（馬場）
3. 生活空間と介護②（すまい、住み慣れた地域での生活の保障）（馬場）
4. 居住環境のアセスメント①（ICFの視点にもとづく利用者の全体像のアセスメント）（馬場）
5. 居住環境のアセスメント②（ICFの視点にもとづく利用者の全体像のアセスメント）（馬場）
6. 安全で住み心地のよい生活の場づくりのための工夫①（快適な室内環境の確保、浴室、トイレ、台所等の空間構成等）（西島）
7. 安全で住み心地のよい生活の場づくりのための工夫②（プライバシーの確保と交流の促進、安全性への配慮、その他）（西島）
8. 安全で心地よい生活の場づくり①（住宅改修、住宅のバリアフリー化）（西島）
9. 安全で心地よい生活の場づくり②（ユニバーサルデザイン、その他）（西島）
10. 施設等での集住の場合の工夫と留意点①（ユニットケア、居室の個室化）（西島）
11. 施設等での集住の場合の工夫と留意点②（なじみの生活空間づくり、その他）（西島）
12. 居住環境整備と生活支援技術①（事例検討①…施設における住環境の整備）（馬場）
13. 居住環境整備と生活支援技術②（事例検討②…在宅における住環境の整備）（馬場）
14. 他の職種の役割と協働（馬場）
15. 学期末振り返り（馬場）

【履修上の注意事項】

必ず、予習と復習を行う。学則により、欠席回数が講義回数の三分の一を超えると、定期試験が受けられないので注意する。履修届けがない場合は、出席しても単位が出ない。

【評価方法】

[単位認定の方法及び基準]

- 1) 期末試験70%
- 2) 予習・復習の自主的学習態度の確認20%
- 3) レポートなどの提出物5%
- 4) 授業態度（授業に適する取り組み姿勢等）5%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術Ⅰ』中央法規 2015年

【参考文献】

福祉住環境コーディネーター2級、東京商工会議所、高齢者・障害者を配慮した建築設計チェックリストと実施例、理工図書、ユニバーサル・バリアフリー検定3級、一般社団法人 日本ユニバーサル・バリアフリー協会

生活支援技術Ⅲ

担当教員 馬場 敏彰、吉岡 久美

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

自立支援の観点から、身じたく・移動・食事・排泄にかかわる基本的な態度と方法について学び、演習を通じて具体的な方法の理解を深める
利用者体験を通して、利用者の気持ちを考えることができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	身じたくの意義と目的	16	状態状況別留意点〈上方・水平移動等演習〉
2	身じたくに関する利用者のアセスメント	17	状態状況別留意点〈仰臥位から側臥位等〉
3	生活習慣と装いの楽しみを支える介護	18	状態状況別留意点〈起居から端座位等演習〉
4	整容行動、衣生活を調整するアセスメント	19	状態状況別留意点〈端座位から立位等演習〉
5	身じたくの介助の留意点(洗面)	20	利用者の状態と状況に応じた移動介護の方法
6	身じたくの介助(整髪)	21	食事の意義・目的
7	身じたくの介助(髭剃り他)	22	食事介護の留意点
8	身じたくの介助(爪切り他)	23	利用者の状態・状況に応じた食事介助の留意
9	身じたくの介助(口腔ケア)見守り一部介助	24	利用者の状態・状況に応じた食事介助の留意
10	身じたくの介助(口腔ケア他)全介助	25	排泄介護の意義と目的(気持ちよい排泄)
11	身じたくの介助(衣服着脱介護他)一部介助	26	排泄介護の留意点(安全・的確な排泄介助)
12	身じたくの介助(衣服着脱介護他)全介助	27	排泄介助の状態状況別留意点〈見守り〉
13	移動の意義と目的	28	排泄介助の状態状況別留意点〈一部介助〉
14	移動に関する利用者のアセスメント	29	排泄介助の状態状況別留意点〈全介助〉
15	状態状況別留意点〈上方・水平移動等演習〉	30	入浴に関するアセスメントの視点と方法

【履修上の注意事項】

授業前にテキスト等で、事前学習を行うこと。演習後のレポートは、期限までに提出すること。レポートを通して復習を行うこと。演習では、決められた服装等を準備すること。

【評価方法】

期末試験60%、実技試験20%、授業への取り組み態度20%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術II』中央法規 最新版

【参考文献】

適宜提示する。

生活支援技術Ⅳ

担当教員 馬場 敏彰、吉岡 久美

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

利用者体験を通して、援助者としての資質向上に努めることができる。
入浴介助における生活支援の技術について、具体的な方法と支援を学び、安全の確保と快適な支援について理解を深めると同時に援助場面でのスキルを身につける。

【授業の展開計画】

詳細な授業計画および準備物等については、第1回目の講義で説明する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	一連の生活支援技術(見守り 一部介助)	16	清潔保持の介助の技法(洗髪介護の方法)
2	一連の生活支援技術(全介助)	17	利用者の状態・状況に応じた介助の留意点
3	自立に向けた入浴のアセスメント	18	利用者の状態・状況に応じた介助の方法
4	ICFの視点にもとづいたアセスメント	19	利用者の状態・状況に応じた介助の演習
5	爽快感・安楽を支える入浴介護の意義	20	利用者の状態・状況に応じた介助のまとめ
6	爽快感・安楽を支える介護の工夫	21	一連の生活支援技術(見守り 一部介助)
7	清潔保持の介助の技法(入浴介護の留意点)	22	一連の生活支援技術(全介助)
8	清潔保持の介助の技法(入浴介護の方法)	23	健康状態確認技法
9	清潔保持の介助(シャワー浴介護の留意点)	24	状態状況別生活支援技術(視覚障害)
10	清潔保持の介助(シャワー浴介護の方法)	25	状態状況別生活支援技術(聴覚・言語障害)
11	清潔保持の介助の技法(清拭介護の留意点)	26	状態状況別生活支援技術(グループ演習)
12	清潔保持の介助の技法(清拭介護の方法)	27	状態状況別支援技術 運動機能障害の理解
13	清潔保持の介助(部分浴介護の留意点)	28	状態状況別生活支援技術(発達障害)
14	清潔保持の介助の技法(部分浴介護の方法)	29	状態状況別支援技術 運動器疾患による障害
15	清潔保持の介助の技法(洗髪介護の留意点)	30	状態状況別支援技術 脳血管障害・神経疾患

【履修上の注意事項】

授業前にテキスト等で、事前学習を行うこと。演習後のレポートは、期限までに提出すること。レポートを通して復習を行い、自分の技術習得の状況を振り返りを行うこと。演習では、決められた服装等を準備すること。

【評価方法】

期末評価(筆記試験・実技試験) 80%、提出物 10%、出席状況や授業への取り組み態度 10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集『生活支援技術Ⅱ』中央法規 最新版

【参考文献】

適宜提示する。

生活支援技術V

担当教員 有馬 留以子

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 4

【授業のねらい】

家庭生活に必要な基礎知識を学び、健康で自立した生活に必要なものは何かについて考えていく。
1人暮らしの高齢者が生活を送るためにどのような生活支援をすればよいのか考えられるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	家庭生活とは	16	被服と皮膚の衛生保持・管理
2	生活設計の考え方	17	被服実習Ⅰ
3	食生活の基本知識	18	被服実習Ⅱ
4	栄養の理解（炭水化物・脂質）	19	被服実習Ⅲ
5	栄養の理解（たんぱく質・無機質・ビタミン）	20	被服実習Ⅳ
6	献立の立て方・食品の購入と選択	21	家事支援の意義と目的
7	高齢者の食事	22	家事支援の介護技術（調理）
8	調理の基本	23	家事支援の介護技術（洗濯）
9	調理実習Ⅰ（調理の基礎）	24	家事支援の介護技術（掃除・ごみ捨て）
10	調理実習Ⅱ	25	家事支援の介護技術（裁縫）
11	調理実習Ⅲ	26	家事支援の介護技術（衣類・寝具の衛生管理）
12	調理実習Ⅳ	27	家事支援の介護技術（買い物）
13	被服の機能	28	家事支援の介護技術（家庭経営・家計の管理）
14	被服の素材・性能と表示	29	他職種の役割と協働
15	被服の管理（手入れと保管）	30	まとめ

【履修上の注意事項】

テキストを事前に学習すること。生活に関連する授業なので、新聞なども読むこと。

【評価方法】

期末テスト70%、作品30%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術Ⅰ』中央法規

【参考文献】

生活支援技術VI

担当教員 馬場 敏彰

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 4

【授業のねらい】

利用者にとっての睡眠の確保と安眠への支援が、快適な生活の基本であることを学ぶ。さらに人間の尊厳にかかわる「終末期」における医療との連携の必要性を理解し、介護福祉士としての役割を身につける。

【授業の展開計画】

詳細な授業計画および準備物等については、第1回目の講義で説明する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	心臓・呼吸機能低下傾向の人の生活理解	16	終末期の介護（尊厳の保持）
2	心臓・呼吸機能低下傾向の人への介護方法	17	終末期におけるアセスメントの視点
3	腎臓機能、膀胱直腸低下傾向の人の生活理解	18	ICfの視点にもとづく終末期のアセスメント
4	腎臓機能、膀胱・直腸低下傾向の人への介護	19	終末期における医療との連携の意義と実際
5	認知・知覚機能低下傾向の人への介護留意点	20	終末期における介護（援助の基本姿勢）
6	認知・知覚機能低下傾向の人への介護方法	21	終末期における介護（他職種との連携等）
7	精神障害の人の生活理解と介護方法	22	終末期における介護（具体的援助）
8	精神障害の人への介護方法	23	臨終期の介護（症状の変化への援助）
9	発達障害者支援技法	24	死別期の介護の留意点と方法 死後のケア含
10	重複障害（重症心身障害）への介護方法	25	グリーフケア 意義・目的 援助者の役割等
11	自立に向けた睡眠の介護（意義・目的）	26	他の職種の役割と協働
12	睡眠に関するICFの視点によるアセスメント	27	多職種間の連携と介護福祉士の役割
13	安眠のための介護の留意点	28	一連の生活支援技術（施設生活）
14	安眠のための介護の方法と工夫	29	一連の生活支援技術（在宅生活）
15	終末期の介護（意義・目的）	30	尊厳ある支援を提供するための方法の理解

【履修上の注意事項】

授業後の復習、授業前の予習を行うこと

【評価方法】

期末試験 80% 授業態度及び取り組み状況 20%

【テキスト】

『生活支援技術Ⅱ』『生活支援技術Ⅲ』中央法規

【参考文献】

適宜提示する。

障害の理解

担当教員 水間 宗幸

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

障害の捉え方の変化、障害者支援の全体像を踏まえながら、主な障害種類について身体機能や心理機能の問題、障害特性を学習し、医学的側面、心理的側面から各障害の基礎的事項を理解できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	”障害”概念の理解
3	視覚障害（種類、原因、障害特性、支援の課題）
4	聴覚障害（種類、原因、障害特性、支援の課題）
5	肢体不自由（種類、原因、障害特性、支援の課題）
6	中途障害と心理的適応
7	難病（種類、原因、特性、支援の課題）
8	内部障害（種類、原因、障害特性、支援の課題）
9	高次脳機能障害（種類、障害特性、支援の課題）
10	精神障害（種類、障害特性、支援の種類）
11	知的障害（種類、障害特性、支援の課題）
12	発達障害（種類、障害特性、支援の課題）
13	障害児・者の支援のためのアセスメント
14	障害児・者の心理的支援
15	まとめ、”障害”をめぐる新しい動き

【履修上の注意事項】

「介護福祉士」国家試験を受験する場合の指定科目「障害の理解」は、本学においては「障害者福祉論Ⅰ」とこの「障害の理解」を併せたものとなりますから、両方を履修しなければなりません。各回の講義テーマについて、事前の学習、事後の振り返り学習が求められます。

【評価方法】

レポートまたは試験80%、授業中の質問への応答20%とする

【テキスト】

「介護福祉士養成テキストブック12 障害の理解」 小澤 温 編著 ミネルヴァ書房

【参考文献】

適宜、紹介する

介護総合演習Ⅰ

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 利用者とのコミュニケーションにより人間的な関わりを深めることで、利用者の生活について理解できることを学ぶ。
2. 体験学習の意義、重要性について理解できる。
3. 介護実習の意義、目的や利用者へのかかわり方について理解できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	介護実習の意義や目的、位置付けについて理解する	〈吉岡〉
2	実習施設の種類に関して知り、実習段階を理解する	〈吉岡〉
3	福祉施設（通所・居宅）の機能と職員の役割について理解する	〈吉岡〉
4	福祉施設（通所・居宅）利用者の特徴とコミュニケーション方法を理解する	〈吉岡・馬場〉
5	実習生としての心構え（マナーを含む）を知る	〈吉岡〉
6	介護実習における記録の必要性とその意義について理解する	〈吉岡〉
7	実習に必要な書類について理解し、作成する	〈吉岡〉
8	実習準備としての事前訪問について理解する	〈吉岡〉
9	実習日誌の重要性を理解し、具体的方法を知る	〈吉岡〉
10	介護実習Ⅰの目的を明確化し、目標設定をする	〈吉岡〉
11	介護実習Ⅰの実践をイメージした行動計画を立案する	〈吉岡〉
12	介護実習Ⅰにむけた実習施設別の学習課題とその指導（個別指導）	〈吉岡〉
13	介護実習Ⅰ直前指導：目標設定の見直し、および施設理解を深める	〈吉岡〉
14	介護実習Ⅰ事後指導：自己の行動を客観的に振り返る	〈吉岡・馬場〉
15	介護実習Ⅰ事後指導：実習における目標の達成度の確認と学びの共有	〈吉岡・馬場〉

【履修上の注意事項】

大学における規定の出席回数を満たしていなければ評価対象としない。
 事前学習として、講義で示している単元のテキストを読むこと。
 事後学習では、講義中にとったノートをまとめなおし、実習に向けた事前学習ノートを整理するとともに、課題に取り組むこと。

【評価方法】

演習への積極性、参加態度 60% 提出物（課題・レポート等）40%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『介護総合演習・介護実習』中央法規

【参考文献】

適宜紹介する。

介護総合演習Ⅱ

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・学内で学んだ知識に基づいて利用者と関わりを深め、介護ニーズについて考える。
- ・高齢者施設での機能や利用者の特徴について理解をする。
- ・高齢者の日常生活援助に関する介護の目的や機能並びに施設職員の一般的な役割について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	介護実習Ⅰを振り返り、高齢者施設での機能と福祉施設職員の役割を理解する
2	介護実習Ⅱの課題である、利用者の特徴とコミュニケーション方法を理解する
3	介護実習Ⅱの要項をもとに、課題の理解と心構えについて深める
4	介護施設における各職種の業務内容と連携について理解する
5	高齢者施設を利用する人の生活について考える
6	カンファレンスの種類を知り、実習カンファレンスの意義・方法を検討する
7	介護実習日誌の重要性の理解と具体的方法を知り、実践することでその内容を検討する
8	介護実習における介護過程の展開（個別介護のための利用者情報獲得）方法を検討する
9	介護実習Ⅱの実習目標および行動計画を作成する
10	介護実習Ⅱの実習目標および行動計画を見直して具体化する
11	実習における自己評価項目を作成する
12	実習の全体像をイメージし、施設理解、利用者理解、生活支援技術実施を具体化する
13	介護実習Ⅱの直前指導として課題を確認し、実習における行動・学習を検討する
14	介護実習Ⅱを振り返り、課題を整理して報告書を作成する
15	実習における学びと実践について発表し、共有しながら高齢者施設における介護を探究する

【履修上の注意事項】

規定の出席回数を満たしていなければ評価対象としない。
 事前学習として、指示された項目を調べてまとめておくこと。
 事後学習として、講義終了後にノートを整理し、指示された課題に取り組むこと。

【評価方法】

取り組み状況20% 授業態度40% 提出物（課題・レポート等）40%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『介護総合演習・介護実習』中央法規

【参考文献】

適宜紹介する。

介護総合演習Ⅲ

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 学習している知識に基づいて、日常生活に援助が必要な高齢者や障がい者の介護ニーズについて考える。
2. 高齢者や障がい者の日常生活介護の目的や機能並びに施設職員の役割について理解する。
3. 日常生活上の支障ある部分に応じた生活支援技術の適正な技法を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	障がい者支援施設の種類と特徴を理解する
2	障がい者支援施設の機能と職員の役割について理解する
3	障がいの特徴とコミュニケーション方法について考える（グループワーク）
4	障がい者支援施設における介護の役割を理解する
5	障がい者支援施設と地域、家族の連携について理解する
6	実習生としての自己覚知をする
7	チームワークを理解し、実習におけるチームの一員としての関わりを検討する
8	実習記録の重要性を再認識し、具体的記入方法を理解する
9	介護実習Ⅲの目的から自己課題を明確にし、課題解決に向けた対策を考える
10	介護実習Ⅲの実習目標を設定し、実践をイメージした行動計画を立案する
11	実習目標および行動計画を見直して具体化する
12	介護実習における自己評価項目を作成する
13	介護実習Ⅲの直前指導として課題を確認し、実習における行動と学習を検討する
14	介護実習Ⅲを振り返り、課題を整理して報告書を作成する
15	介護実習Ⅲにおける目標達成度の確認と学びの共有を発表を通して実践する

【履修上の注意事項】

規定の出席回数を満たしていなければ評価対象としない
シラバスを確認して、単元の事前学習と準備を行い、演習後には課題にとりくむこと

【評価方法】

演習への積極性、参加態度：60% 提出物（課題・レポート等）：40%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会「介護総合演習・介護実習」 中央法規

【参考文献】

適宜紹介する

介護総合演習Ⅳ

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 介護過程の展開を考え、個別介護について理解を深め、実践につなげることができる。
2. 施設職員の組織を理解し、チームの一員として介護業務を行う能力を養う。
3. 介護過程の展開を考え、個別介護について検討できる能力を獲得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	介護実習Ⅲを振り返り、施設や技術、利用者の理解を深める
2	介護実習Ⅲにおける学習について、その成果と不足点を分析する
3	介護実習Ⅰ～Ⅲから、自己の課題を明確にする
4	介護実習Ⅳの目的を理解し、日常生活が困難な方への技術の提供を検討する
5	入所施設と地域、家族の連携について、現状と課題を検討する（討議）
6	これまでの体験から、連続した生活支援について考え、生活課題を見出す方法を探る
7	介護実習Ⅳの目的から自己課題を明確にする
8	介護実習Ⅳの実習目標を設定し、行動計画を立案する
9	実習目標及び行動計画を具体化し、日々の行動計画を作成する
10	実習課題である「介護福祉士の役割」について検討する（討議）
11	チームアプローチについて考え、具体的場面から介護の役割を見出す
12	介護実習における自己評価項目を作成する
13	介護実習Ⅳの直前指導として課題を確認し、実習における行動と学習を検討する
14	介護実習Ⅳを振り返り、課題を整理して報告書を作成する
15	介護実習Ⅳにおける目標達成度の確認と学びの共有を、発表を通して実践する

【履修上の注意事項】

規定の出席回数を満たしていなければ評価対象としない
シラバスを確認して、単元の事前学習と準備を行い、演習後には課題に取り組むこと

【評価方法】

演習への積極性、参加態度：60% 提出物（課題・レポート等）：40%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会「介護総合演習・介護実習」 中央法規

【参考文献】

適宜紹介する

介護総合演習V

担当教員 吉岡 久美

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

居宅介護、グループホーム等に関する制度を理解し、利用者の生活形態、家族関係を考慮した生活援助を学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	グループホームに関する制度と利用者の生活を理解する
2	在宅生活をする介護が必要な対象者の生活を理解する
3	在宅生活を支援する介護の専門性と実践を理解する
4	居宅支援に位置づけられる福祉サービスを理解する
5	居宅支援の実践者とその役割を理解する
6	居宅支援における介護福祉士の役割を探求する（グループワーク）
7	居宅支援のチームアプローチにおける連携方法を考える
8	居宅支援の実践に必要な接遇等を考える
9	これまでの実習を振り返り、居宅支援の実施にむけた自己課題を明確化する
10	介護実習Vの目的を明確化し、目標設定をする
11	介護実習Vの行動計画を作成する
12	実習施設の理解を深め、考えられる利用者像をもとに生活支援を検討する
13	介護実習Vの直前指導として、課題を確認して実習における行動と学習を検討する
14	介護実習Vを振り返り、自己評価をもとに目標達成状況の確認と報告書作成をする
15	介護の対象者の理解、施設理解、生活支援技術の提供等について総合的にまとめ発表する

【履修上の注意事項】

事前学習として、単元に関するテキストを読んでもらうこと。
事後学習では、演習における課題に取り組むこと。

【評価方法】

演習への積極性、参加態度：60% 提出物（課題、レポート等）：40%

【テキスト】

新) 介護福祉士養成講座編集『介護総合演習・介護実習』中央法規 最新版

【参考文献】

介護実習要項等

介護実習 I

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

通所施設や居宅施設を利用する日常生活援助が必要な人を知り、その介護の目的や機能並びに施設職員の役割について説明できる。

【授業の展開計画】

利用者と関わることでその人を知り、講義、演習、学内実習で学んだ知識を基に介護ニーズを考える。

1. コミュニケーション能力を身につけ、対象者理解を意識して行動する。
2. 福祉施設（ディサービス等）の機能と職員の役割を知る。
3. 施設内の環境を知り、実際の介護技術の提供場面を体験する。

□

【実習内容】

1. 利用者とかかわり、コミュニケーション技術を習得する。
2. 利用者のニーズを考え、介護の実践の場を体験する。
3. 記録を通して自己の学びを明確化する。

【履修上の注意事項】

実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること。

実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと。

【評価方法】

施設指導者による評価 60% 実習担当教員による評価30% 実習への総合的な積極性 10%

【テキスト】

新) 介護福祉士養成講座編集『介護総合演習・介護実習』中央法規

【参考文献】

本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等

介護実習Ⅱ

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・学内で学んだ講義、演習、学内実習を基にして、施設実習に応用する。
- ・生活障害を有する高齢者の施設を実習施設とし、要介護に応じて求められる介護技術の適正な使い方を身につけ、利用者の権利を尊重する態度を養う。
- ・利用者の自立支援の観点から、利用者の全人格的理解と福祉サービスの全体像を把握でき、適切な援助ができる能力を身につける。

【授業の展開計画】

【実習の概要】

1. 利用者への適正な介護技術が援助でき、カンファレンスの意義やあり方、連携の必要性を理解して積極的な参加ができるようにする。
2. 福祉機器や福祉用具の知識と活用を学ぶ。

【実習内容】

1. 利用者の生活状況を理解する。
2. 障害に応じたコミュニケーションの方法を習得する。
3. カンファレンスについて理解し、実践する。
4. 利用者の状態やニーズに応じた介護技術や援助の方法を実践する。

【履修上の注意事項】

実習生として相応しい学修態度に留意し、実習中の課題に取り組むこと
実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること
実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと

【評価方法】

施設評価60%、教員評価30%、その他10%

【テキスト】

新) 介護福祉士養成講座編集『介護総合演習・介護実習』中央法規

【参考文献】

本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等

介護実習Ⅲ

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 実習

単位数 2

【授業のねらい】

講義・演習における学びを基本とし、高齢者および障がい者施設で生活する利用者を理解し、その介護を具体的にアセスメントする。また、日常生活に必要な支援技術を実践することで、介護技術を習得する。

【授業の展開計画】

【実習の概要】

- ・生活支援技術が必要な高齢者及び障がい者の生活を夜間の状況を含めて理解する。
- ・適正な介護技術の提供のための利用者理解とアセスメントを行い、課題の抽出と目標の設定を行うことで、尊厳に基づいた個別性のある介護を考える。
- ・カンファレンスの意義やあり方、連携の必要性を理解し、チームアプローチを学ぶ。

【実習内容】

1. 様々な情報源から、日常生活に支障のある高齢者や障がい者の生活を把握し、その介護ニーズを見出す。
2. 生活の困難に応じた介護技術の提供方法を習得する。
3. 尊厳を重視する介護について学ぶ。
4. 施設における介護の実践が終日継続されていることを体験し、連携の必要性を学ぶ。

【履修上の注意事項】

実習生としてふさわしい学習態度に留意し、実習中の課題に取り組むこと
実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること
実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと

【評価方法】

施設評価：60% 教員評価：30% その他提出物等：10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集「介護総合演習・介護実習」 中央法規

【参考文献】

本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等

介護実習Ⅳ

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

福祉施設職員の組織を理解し、チームの一員として介護を遂行する能力を養う。

【授業の展開計画】

【実習の概要】

1. 施設運営のプログラムに参加し、福祉サービス全般について理解する。
2. 施設の通所サービスに参加し、地域、家族、施設の関係について学ぶ。

【実習内容】

1. 利用者の個別の特性を把握して個別介護計画を立案し実施することで、利用者の変化を把握する。
2. 利用者を全人的に受け止め、その生活や存在全体を考える。
3. 夜間学習を体験することで、介護の継続性やチームワークについて学ぶ。
4. 多職種の業務を見学してそのかかわりを知り、介護専門職の役割を理解する。

【履修上の注意事項】

実習生としてふさわしい学習態度に留意し、実習中の課題に取り組むこと
実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること
実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと

【評価方法】

施設評価：60% 教員評価：30% その他提出物等：10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集「介護総合演習・介護実習」 中央法規

【参考文献】

本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等

介護実習V

担当教員 吉岡 久美

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 実習

単位数 2

【授業のねらい】

居宅介護、グループホーム等の実習を体験することにより、高齢者が住み慣れた住宅や地域の中で自己の能力を最大限に生かして、その人らしい生活が継続できるようにするための実践活動ができる。

【授業の展開計画】

【実習の概要】

1. 居宅介護、グループホーム等の実習を体験することで、高齢者や障がい者が住み慣れた住宅や地域の中でその人らしい生活が継続できるようにするための実践活動を学ぶ。
2. 居宅生活を支援する介護福祉士の役割を学ぶ。

【実習内容】

1. 居宅、グループホーム等で介護を必要とする人の生活を把握し、介護ニーズにあった介護の提供を学ぶ。
2. 居宅、グループホーム等での利用者と家族、地域とのつながりを知り、関連するサービスの必要性を学ぶ。
3. 居宅生活を支援する医療・保健・福祉の連携について学び、介護福祉士の役割を理解する。

【履修上の注意事項】

介護実習Ⅳを修了していること

実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること。

実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと。

【評価方法】

施設指導者による評価:60% 実習担当教員による評価:30% 実習への総合的な積極性:10%

【テキスト】

新) 介護福祉士養成講座編集『介護総合演習・介護実習』中央法規

【参考文献】

本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等